

資料

## 児童・生徒の喫煙に対する保護者の意識 その1 その現状と課題

武田則昭\*<sup>1</sup> 川田久美\*<sup>2</sup> 合田恵子\*<sup>3</sup> 村上 淳\*<sup>4</sup> 芝本英博\*<sup>5</sup>

### 要 約

平成13年11～12月、香川県B町の児童、中学校生徒(以下、生徒と略)およびその保護者の喫煙に関する現状、児童・生徒の喫煙に関する保護者の意識や行動などについて調査した。その内、今回は調査例の少ない児童・生徒の喫煙に対する保護者の意識を中心に検討し下記の結果を得た。

1. 小学生で喫煙経験ありは1人であったが、タバコをすすめたのは父親であり重大な問題である。
2. 中学生の喫煙率は全国調査に比較するとやや高率であった。中学生でタバコをすすめられた者は2割で、すすめた人は先輩、友人が主たるものであったが、家族の者も少なからずあり、今後は、家族ぐるみの教育・啓発が必要である。ほとんどの生徒が喫煙に関して学校で学習しており、家庭は極めて低率であった。
3. 保護者は全国値に比較して喫煙率が高い傾向にあった。自分の子供の喫煙についてはほとんどの者がないとしており、現状認識が低いことが窺われた。自分の子供については非喫煙を希望していたが、喫煙対策について必ずしも積極的でないことが窺われた。

### はじめに

喫煙に関して「健康日本21」の冒頭に成人男性の喫煙率が先進国の中では極めて高率であること、若い女性や未成年者の喫煙率が上昇していることなどが挙げられている<sup>1)</sup>。また、その基本方針に「たばこによる疾病・死亡の低減」を掲げ、未成年者の喫煙防止(防煙)、受動喫煙の害を排除・減少させるための環境づくり(分煙)、禁煙希望者に対する禁煙支援および喫煙継続者に対する節度ある喫煙(禁煙支援・節煙)の3つの対策の強力な推進が示された<sup>1)</sup>。そのうち、未成年者の喫煙については、2010年までに未成年者の喫煙をなくすことを最終目標として、現状での中高生の喫煙率の基準値(中学1年男子7.5%、女子3.8%、高校3年男子36.9%、女子15.6%)を示している<sup>1)</sup>。しかし、市中にはタバコの自動販売機が設置され、中高生の喫煙風景が市中で見られるなど、現状においては未成年者の喫煙状況およびその周辺環境は十分ではない<sup>1,3)</sup>。

報告者らは香川県B町において、未成年者に対する喫煙防止対策を発信源として、町ぐるみ喫煙対策の流れが形成されることを目的に喫煙事業を企画

し、推進している。その一環としてB町の児童、中学校生徒(以下、生徒と略)およびその保護者の喫煙に関する現状、児童・生徒の喫煙に関する保護者の意識や行動、児童・生徒における喫煙意識とセルフエスティームとの関連性などについて調査した。その内、今回は調査例の少ない児童・生徒の喫煙に対する保護者の意識を中心に報告する。

### 対象と方法

調査の概要については、事業計画開始前に、A県がB町教育委員会、C小・D中学校教職員、C小・D中学校児童・生徒・PTA等に、事前に今回の調査や禁煙事業の趣旨、意義等を十分に説明し、代表者で協議を行った。その後、E医科大学等が中心になって作成した調査票の内容、表現等の妥当性について、それぞれ検討、協議を行い、最終的な調査票を完成した。また、調査に際しては倫理的な問題、インフォームド・コンセント、守秘性についても十分考慮して行った。

【小学校】対象はC小学校4年生全クラス(2クラス)の51人全員、その保護者の50人全員(1組双子)であった。

\*1 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科 \*2 香川県明善短期大学 生活学科 \*3 香川県健康福祉部健康福祉総務課  
\*4 中国学園大学 現代生活学部 人間栄養学科 \*5 川上町医療センター  
(連絡先)武田則昭 〒701-0193 倉敷市松島288 川崎医療福祉大学

平成13年12月1日に対象児童に、教室にて担任の先生が調査票（無記名式）を配布し、先生が教室で説明を加えながら児童が回答する方法で行った。回答後は、その場で調査票を所定の封筒に入れ、厳封して回収した（回収率：100%）。その保護者については、同日に、児童が保護者用の調査票（無記名）を家庭に持ち帰り、保護者が回答した後、保護者自身が所定の封筒に厳封する方法で行った。その回収は12月2日に児童を介して行った（回収率：100%）。

【中学校】対象はD中学校の全学年、全クラス（各2クラス）の182人全員（内1人は障害児で回答不能）とその保護者の169人（複数の生徒の保護者は回答を1回にした）であった。

平成13年11月26日から12月5日の間に対象生徒に、教室にて担任の先生が調査票（無記名、学年は示さず年齢のみ記入）を配布し、先生が随時教室で説明を加えながら生徒が回答する方法で行った。保護者については小学生と同様に行った。また、回答後は小学校と同様の方法で12月6日に生徒を介して行った（回収率：99.5%）。

統計的解析は、保護者の「児童・生徒の喫煙に関する意識等」に関して性別、学校種別（小学校、中学校）にそれぞれクロス集計し、カイ二乗検定（クロス集計でセル内のサンプル数が5以下の場合はフィッシャーの直接確率法にて検定）を行った。なお、保護者の一部が小・中学校で重複しており、小学校、中学校併せて検討した。児童・生徒の結果については、研究の主目的が保護者であることから単純集計を中心とし、喫煙経験率を除いて性、年齢区分別の検討は行わなかった。

## 結 果

### 1．小学生（男43.1%、女56.9%）

喫煙経験者は51人中男子1人であった。なお、勧めたのは父親であった。タバコは「体に悪い」と全員が考えていた。

タバコと健康については、全員が勉強したとしており、学校での学習が97.1%と主たるもので、家庭は23.5%であった。

20才になった時、多分吸っていない47.1%、絶対に吸っていない33.3%、たぶん吸っている3.9%、絶対に吸っている2.0%、わからない13.7%と予測していた。

友だちからタバコを勧められた場合、少しは断ることができる15.7%、かなり断ることができる19.6%、必ず断ることができる43.1%、全く断ることができない3.9%、わからない17.6%であった。

### 2．中学生（男50.6%、女49.4%）

全生徒の喫煙経験者率は17.6%（男28.7%、女6.0%）で、男12-13歳14.3%、男14-15歳35.6%、女12-13歳3.5%、女14-15歳7.3%であった（表1）。初めて吸ったきっかけは好奇心59.3%が主なもので、友人22.2%、先輩3.7%、家族3.7%が主たるものであった。

タバコは「体に害がある」と94.4%の者が考えていた。

タバコと健康については、90.0%の者が勉強したとしており、学校での学習教育が97.5%と主たるもので、家庭は6.4%であった。

20才になった時、多分吸っていない32.4%、絶対に吸っていない43.0%、多分吸っている5.0%、絶対に吸っている3.4%、わからない16.2%と予測していた。

友だちからタバコを勧められた場合、少しは断ることができる22.8%、かなり断ることができる21.7%、必ず断ることができる40.6%、全く断ることができない11.7%、わからない12.8%と予測していた。

家族で「未成年の喫煙」について話したことがあるでは71.2%の者がいないとしていた。

### 3．保護者

小学生、中学生の保護者は22.8%、77.2%であった。続柄は父28.0%、母70.6%、その他1.4%であった。年齢は40歳代54.6%、30歳代38.8%、50歳代5.1%、60歳以上1.4%の順であった。

表1 中学生喫煙経験

タバコを吸ったことがありますか %（除不）	全体	中学生性別		中学生性別×中学生年齢4区分			
		男性	女性	男12-13歳	男14-15歳	女12-13歳	女14-15歳
合計	170 100.0	87 100.0	83 100.0	28 100.0	59 100.0	28 100.0	55 100.0
今までに吸ったことがない	140 82.4	62 71.3	78 94.0	24 85.7	38 64.4	27 96.4	51 92.7
吸ったことがある	30 17.6	25 28.7	5 6.0	4 14.3	21 35.6	1 3.6	4 7.3

\*P<0.05

\*P<0.05

年齢構成は女で年齢が低く (P<0.05), 小学校男女で年齢が低い傾向にあった (表2)。

3.1. 保護者自身の喫煙関連状況

喫煙経験では、「吸ったことがない」60.6%、「毎日吸っている」29.8%、「以前は吸っていた」8.3%、「時々」1.4%の順であった (表3)。性別、学校種別では大きな違いはなかった (表4)。

喫煙のきっかけでは、「好奇心」56.1%、「友人のすすめ」9.8%、「先輩のすすめ」7.3%、「大人の仲間入り」4.9%などの順であった (表3)。

今後の喫煙では、「本数を減らしたい」53.6%、「やめる気持ちはない」23.2%、「やめたい」13.0%、「吸う日数を減らしたい」4.3%などの順であった (表3)。

喫煙の害では、「害がある」88.9%、「大したことはない」8.3%などであった (表3)。

職場での禁煙状況では、「どこでも喫煙可能」40.7%、「喫煙場所指定」33.8%、「全面禁煙」5.6%などの順であった (表3)。

3.2. 児童・生徒の喫煙に関する意識等

自分の子供の喫煙では、「吸ったことがないと思う」94.0%であった (表5)。性別、学校種別では、

大きな違いはなかったが、「吸ったことがない」は男性、小学校で高い傾向にあった (表6)。

自分の子供の20才前の喫煙では、「吸わないで欲しい」83.9%、「本人の好きなように」9.6%、「少量なら」4.1%、「わからない」2.3%であった (表5)。性別、学校種別では、大きな違いはなかったが、「吸わないで欲しい」は小学校で低く、「本人が好きなようにすればよい」は男性、中学校で高い傾向にあった (表6)。

自分の子供の喫煙を見つけたらでは、「注意してやめさせる」83.9%、「適度に吸うように言う」7.8%、「わからない」6.9%、「何もしない」1.4%の順であった (表5)。性別、学校種別では、大きな違いはなかったが、「適度に吸うように言う」は男性、中学校・男性、「わからない」は小学校でそれぞれ高い傾向にあった (表6)。

未成年者の喫煙防止の学校教育では、「積極的にすすめる」63.9%、「すすめるべき」22.8%、「今のままでよい」9.6%、「関心がない」2.3%、「その他」0.9%、「必要がない」0.5%の順であった (表5)。性別、学校種別では、大きな違いはなかったが、「今のままでよい」、「関心がない」は男性で高い傾向に

表2 保護者の年零分布 —性別、性・学校種別—

年齢階級	保護者性別		学校種別×保護者性別			
	男性	女性	小保男	中保男	小保女	中保女
合計	62 100.0	153 100.0	18 100.0	44 100.0	32 100.0	121 100.0
30~34歳	5 8.1	18 11.8	5 27.8	0 0.0	8 25.0	10 8.3
35~39歳	17 27.4	43 28.1	7 38.9	10 22.7	13 40.6	30 24.8
40~44歳	16 25.8	64 41.8	3 16.7	13 29.6	9 28.1	55 45.5
45~49歳	14 22.6	24 15.7	0 0.0	14 31.8	2 6.3	22 18.2
50~54歳	8 12.9	2 1.3	2 11.1	6 13.6	0 0.0	2 1.7
55~59歳	0 0.0	1 0.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.8
60~64歳	1 1.6	0 0.0	0 0.0	1 2.3	0 0.0	0 0.0
65~69歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
70歳以上	1 1.6	1 0.7	1 5.6	0 0.0	0 0.0	1 0.8

有意差判定：P<0.05

上段：件数 下段：% (除不)

表3 保護者の喫煙情況 —中学生—

質問項目	件数	% (除不)
タバコを吸っていますか 計	219	100.0
以前から吸ったことがない	132	60.6
以前は吸っていたがいまは吸っていない	18	8.3
時々吸っている	3	1.4
毎日吸っている	65	29.8
不明	1	
タバコを初めて吸ったきっかけ 計	86	100.0
好奇心から	46	56.1
友人のすすめ	8	9.8
先輩のすすめ	6	7.3
兄弟のすすめ	1	1.2
その他の家族のすすめ	1	1.2
カッコいいから	0	0.0
大人の仲間入り	4	4.9
美容のため	0	0.0
コマーシャルをみて	0	0.0
イライラしたから	6	7.3
わからない	10	12.2
不明	4	
今後の「喫煙」についての考え 計	86	100.0
やめたい	9	13.0
本数を減らしたい	37	53.6
やめる気持ちはない	16	23.2
吸う日数を減らしたい	3	4.3
その他	4	5.8
不明	17	
タバコを吸うと身体に害があると思いますか 計	219	100.0
かえって健康に良いと思う	0	0.0
体に良くも悪くもないと思う	2	0.9
多少はあるだろうが大したことはないと思う	18	8.3
害があると思う	192	88.9
わからない	4	1.9
不明	3	
あなたの働いている職場は禁煙ですか 計	219	100.0
仕事をしていない	39	18.1
全面禁煙である	12	5.6
喫煙場所が指定してある	73	33.8
会議室は禁煙である	10	4.6
禁煙タイムが設定されてある	6	2.8
どこでも喫煙できる	88	40.7
不明	3	

表4 保護者の喫煙経験

タバコを吸っていますか	保護者性別		学校種別×保護者性別			
	男性	女性	小保男	中保男	小保女	中保女
合計	62 100.0	155 100.0	18 100.0	44 100.0	32 100.0	123 100.0
以前から吸ったことがない	6 9.7	126 81.3	0 0.0	6 13.6	24 75.0	102 82.9
以前は吸っていたがいまは吸っていない	9 14.5	9 5.8	4 22.2	5 11.4	2 6.3	7 5.7
時々吸っている	1 1.6	2 1.3	0 0.0	1 2.3	0 0.0	2 1.6
毎日吸っている	46 74.2	18 11.6	14 77.8	32 72.7	6 18.8	12 9.8

上段：件数 下段：％（除不）

あった（表6）。

未成年者の喫煙防止の家庭教育では、「積極的にすすめる」57.8%、「すすめるべき」26.1%、「今のままでよい」12.8%、「その他」1.4%、「関心がない」0.9%、「必要がない」0.9%の順であった（表5）。性別、学校種別では、大きな違いはなかったが、「今のままでよい」、「関心がない」は男性、小学校で高い傾向にあった（表6）。

タバコの広告では、「規制すべき」42.6%、「積極的に規制すべき」25.5%、「今のままでよい」21.8%、「関心がない」5.1%、「規制の必要がない」4.2%、「その他」0.9%の順であった（表5）。性別、学校種別では、大きな違いはなかったが、「今のままでよい」、「規制の必要がない」は男性、中学校・男性で高く、「積極的に規制すべき」、「規制すべき」は中学校・男性で低い傾向にあった（表6）。

タバコの自動販売機の設置では、「規制すべき」32.9%、「今のままでよい」31.0%、「積極的に規制すべき」30.6%、「規制の必要がない」2.8%、「その他」0.5%の順であった（表5）。性別、学校種別では、大きな違いはなかったが、「積極的に規制すべき」、「規制すべき」は男性で低く、「今のままでよい」は男性、中学校・男性で高い傾向にあった（表6）。

### 考 察

#### 1. 小学生

喫煙経験があるとして申告した男子は51人中1人で、その割合はおおよそ2%弱であった。児童・青少年の喫煙率は調査時期、性、年齢、学校、地域により違いが大きい<sup>2,3)</sup>とされるため単純には比較できないが、本結果はその他の報告による4年生児童の

喫煙率0~2%とほぼ同様であった。なお、今回の喫煙児童にタバコをすすめたのは「父」であることは大きな問題であり、保護者の意識改革が求められる。喫煙の健康影響を含め、喫煙に関する学習は十分に行われており、中でも学校の役割が大きいことが窺われる。一方、家庭による教育は十分とはいえず、改善が必要である。20歳になった時の喫煙や友達からタバコをすすめられた時に断れるかなどの想定質問は、小学生には回答はかなり難しいと思われるが、20歳時に絶対喫煙していない、すすめられても必ず断れるとした者はそれぞれ3割強、4割強と少なく、それ以外の者については喫煙予備軍になることも予測されることから、それらの理由を十分に把握した上で個々人にあった形で適切なアドバイスや指導が必要である。

#### 2. 中学生

本中学生の喫煙率は全国調査（1990-1991）<sup>1)</sup> 中学1年生男子3~4%、女子0~2%、2年生男子6~9%、女子2%、3年生男子8~11%、女子3~4%<sup>2,3)</sup>に比較するとやや高率である。また、近年、青少年の喫煙率は上昇傾向にあるとされており、喫煙率の低減化は今後の重要な検討課題である。

中学生でタバコをすすめられた者は2割で、すすめた人は先輩、友人が主たるものであるが、家族の例も少なからず見られ、後者については家族ぐるみでの教育・啓発が必要である。

20歳になった時の喫煙の状況予測では、ほとんどの者が吸っていないとしていたが、わからないとする者も少なからずみられ、後者については適切な行動等がとれるよう指導、助言等が必要である。

喫煙に関してはほとんどの生徒が勉強しており満足のいく結果であったが、学校による教育が大半で

表5 保護者の生徒の喫煙に関する意識等 —中学校—

	件数	% (除不)
お子さんはタバコを吸っていると思いますか 計	219	100.0
現在吸っていると思う	1	0.5
吸ったことがあるが、現在は吸っていないと思う	7	3.2
吸ったことがないと思う	205	94.0
わからない	5	2.3
不明	1	
お子さんが20歳になる前にタバコを吸うことについて 計	219	100.0
吸わないで欲しい	183	83.9
少量度なら良いと思う	9	4.1
本人が好きならすばい	21	9.6
わからない	5	2.3
不明	1	
お子さんがタバコを吸っているのを見つけたら 計	219	100.0
注意してやめさせる	182	83.9
適度に吸うように言う	17	7.8
何もしない	3	1.4
わからない	15	6.9
不明	2	
未成年者の喫煙防止の学校教育についての考え 計	219	100.0
積極的にすすめるべき	140	63.9
すすめるべき	50	22.8
今のままでよい	21	9.6
必要がない	1	0.5
関心がない	5	2.3
その他	2	0.9
不明	0	
未成年者の喫煙防止の家庭教育についての考え 計	219	100.0
積極的にすすめるべき	126	57.8
すすめるべき	57	26.1
今のままでよい	28	12.8
必要がない	2	0.9
関心がない	2	0.9
その他	3	1.4
不明	1	
タバコの広告についての考え 計	219	100.0
積極的に規制すべき	55	25.5
規制すべき	92	42.6
今のままでよい	47	21.8
規制の必要がない	9	4.2
関心がない	11	5.1
その他	2	0.9
不明	3	
タバコの自動販売機の設置についての考え 計	219	100.0
積極的に規制すべき	66	30.6
規制すべき	71	32.9
今のままでよい	67	31.0
規制の必要がない	6	2.8
関心がない	5	2.3
その他	1	0.5
不明	3	

表6 保護者の児童・生徒の喫煙に関する意識等 ―性別、性・学校種別―

質問項目	保護者性別		学校種別×保護者性別			
	男性	女性	小保男	中保男	小保女	中保女
お子さんはタバコを吸っていると思いますか	63 100.0	154 100.0	18 100.0	45 100.0	32 100.0	122 100.0
現在吸っていると思う	0 0.0	1 0.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.8
吸ったことがあるが、現在は吸っていないと思う	1 1.6	6 3.9	0 0.0	1 2.2	0 0.0	6 4.9
吸ったことがないと思う	61 96.8	143 92.9	18 100.0	43 95.6	32 100.0	111 91.0
わからない	1 1.6	4 2.6	0 0.0	1 2.2	0 0.0	4 3.3
お子さんが20歳になる前にタバコを吸うことについて	62 100.0	155 100.0	18 100.0	44 100.0	32 100.0	123 100.0
吸わないで欲しい	51 82.3	132 85.2	16 88.9	35 79.6	26 81.3	106 86.2
少量程度なら良いと思う	1 1.6	8 5.2	0 0.0	1 2.3	2 6.3	6 4.9
本人が好きなようにすればよい	9 14.5	11 7.1	2 11.1	7 15.9	2 6.3	9 7.3
わからない	1 1.6	4 2.6	0 0.0	1 2.3	2 6.3	2 1.6
お子さんがタバコを吸っているのを見つけたら	62 100.0	154 100.0	17 100.0	45 100.0	32 100.0	122 100.0
注意してやめさせる	50 80.7	131 85.1	14 82.4	36 80.0	26 81.3	105 86.1
適度に吸うように言う	7 11.3	10 6.5	1 5.9	6 13.3	2 6.3	8 6.6
何もしない	1 1.6	2 1.3	0 0.0	1 2.2	1 3.1	1 0.8
わからない	4 6.5	11 7.1	2 11.8	2 4.4	3 9.4	8 6.6
未成年者の喫煙防止の学校教育についての考え	63 100.0	155 100.0	18 100.0	45 100.0	32 100.0	123 100.0
積極的にすすめるべき	40 63.5	100 64.5	10 55.6	30 66.7	22 68.8	78 63.4
すすめるべき	12 19.1	37 23.9	4 22.2	8 17.8	5 15.6	32 26.0
今のままでよい	8 12.7	13 8.4	3 16.7	5 11.1	4 12.5	9 7.3
必要がない	0 0.0	1 0.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.8
関心がない	2 3.2	3 1.9	0 0.0	2 4.4	1 3.1	2 1.6
その他	1 1.6	1 0.7	1 5.6	0 0.0	0 0.0	1 0.8
未成年者の喫煙防止の家庭教育についての考え	63 100.0	154 100.0	18 100.0	45 100.0	32 100.0	122 100.0
積極的にすすめるべき	40 63.5	86 55.8	10 55.6	30 66.7	19 59.4	67 54.9
すすめるべき	11 17.5	45 29.2	3 16.7	8 17.8	7 21.9	38 31.2
今のままでよい	10 15.9	18 11.7	4 22.2	6 13.3	5 15.6	13 10.7
必要がない	0 0.0	2 1.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 1.6
関心がない	1 1.6	1 0.7	0 0.0	1 2.2	0 0.0	1 0.8
その他	1 1.6	2 1.3	1 5.6	0 0.0	1 3.1	1 0.8
タバコの広告についての考え	63 100.0	152 100.0	18 100.0	45 100.0	32 100.0	120 100.0
積極的に規制すべき	14 22.2	41 27.0	3 16.7	11 24.4	7 21.9	34 28.3
規制すべき	24 38.1	67 44.1	10 55.6	14 31.1	13 40.6	54 45.0
今のままでよい	17 27.0	30 19.7	3 16.7	14 31.1	7 21.9	23 19.2
規制の必要がない	6 9.5	3 2.0	2 11.1	4 8.9	0 0.0	3 2.5
関心がない	2 3.2	9 5.9	0 0.0	2 4.4	4 12.5	5 4.2
その他	0 0.0	2 1.3	0 0.0	0 0.0	1 3.1	1 0.8
タバコの自動販売機の設置についての考え	63 100.0	152 100.0	18 100.0	45 100.0	32 100.0	120 100.0
積極的に規制すべき	17 27.0	49 32.2	3 16.7	14 31.1	9 28.1	40 33.3
規制すべき	16 25.4	55 36.2	9 50.0	7 15.6	11 34.4	44 36.7
今のままでよい	27 42.9	39 25.7	5 27.8	22 48.9	10 31.3	29 24.2
規制の必要がない	2 3.2	4 2.6	1 5.6	1 2.2	0 0.0	4 3.3
関心がない	1 1.6	4 2.6	0 0.0	1 2.2	1 3.1	3 2.5
その他	0 0.0	1 0.7	0 0.0	0 0.0	1 3.1	0 0.0

上段：件数 下段：％（除不）

家庭は極めて低率であった。また、家族ぐるみで話したことがある割合は2割弱と低く、上記の結果を裏付けるもので、家族ぐるみの意識が育つように学校、行政などの地域ぐるみの積極対策が求められる。

### 3. 保護者の意識等

男性は7割以上、女性は2割前後が喫煙しており、男女共に全国値に比較して喫煙率が高いことが窺える。今後の喫煙については、「やめる気持ちはない」の2割強を除くと、ほとんどの者が減煙、禁煙を希望しており、家族ぐるみの喫煙対策は有効と思われる。

自分の子供の喫煙について「現在吸っている」、「過去に吸っていた」と思う者は小学校、中学校ともほとんどなく、とりわけ中学生の保護者については現実とのギャップが大きく、正しい現状認識に導く必要がある。

自分の子供が20才になった時、8割強の者が吸わないことを希望し、自分の子供が喫煙しているところを見つけたら、8割強の者が注意してやめさせるとしていたが、未成年者の喫煙防止教育で「学校で積極的」6割強、「家庭で積極的」6割弱、タバコの広告で「規制すべき」4割強、タバコの自動販売機の設置で「積極的に規制すべき」3割で、喫煙対策に対する認識の甘さが浮かび上がった。なお、上記の結果は性別、学校種別に有意の違いはなかったが、男性や中学生の保護者では児童・生徒の喫煙に対して若干寛容な傾向が見られ、今後、喫煙対策を考える際はこれらの傾向を踏まえて行うことが大切と思われる。

今回得られた児童・生徒やその保護者の状況では、「健康日本21」<sup>2)</sup>に挙げられている2010年未成年者喫煙率0の目標達成は極めて困難といえる。今後は、本結果に併せて、児童・生徒の喫煙に関して保護者

の喫煙状況・意識別の解析、さらには家族ぐるみ喫煙対策活動などの介入研究を追加し、対象児童・生徒の喫煙ゼロを実現できるように検討していきたい。

### ま と め

1. 小学生で喫煙経験ありは51人中男子1人で全国値並であったが、本児童にタバコをすすめたのは父親であり重大な問題である。
2. 中学生の喫煙率は全国調査に比較するとやや高率で、青少年の昨今の喫煙率上昇傾向を考え合わせると今後の重要課題である。
3. 中学生でタバコをすすめられた者は2割で、すすめた人は先輩、友人が主たるものであったが、家族の者も少なからずあり、今後は、家族ぐるみの教育・啓発が必要である。20才になった時の喫煙の状況予測では、ほとんどの者が吸っていないとしていた。ほとんどの生徒が喫煙に関して学習しており、学校がほとんどで、家庭は極めて低率であった。喫煙に関して家族ぐるみで話したことがある割合は2割弱であった。
4. 保護者では、喫煙者は小・中学校併せて男性7割以上、女性2割弱で男女共に全国値に比較して喫煙率が高い傾向にあった。今後の喫煙はほとんどの者が減煙、禁煙を希望していた。自分の子供の喫煙についてはほとんどの者がないとしており、現状認識が低いことが窺われた。自分の子供が20才になった時に「吸わないことを希望」、自分の子供が喫煙しているところを見つけたら「注意してやめさせる」は共に8割強であったが、未成年者の喫煙防止教育を「学校で積極的」6割強、「家庭で積極的」6割弱、タバコの広告を「規制すべき」4割強、タバコの自動販売機の設置を「今のままでよい」2割強で、対策について必ずしも積極的でないことが窺われた。

### 文 献

- 1) 国民衛生の動向，厚生統計協会，東京，6-88，2001。
- 2) 尾崎米厚，箕輪真澄：わが国の中・高校生の喫煙に関する全国調査（第1報）中・高校生の喫煙率。日本公衛誌，40，39-48，1993。
- 3) 喫煙と健康 喫煙と健康問題に関する報告書 第2版，厚生省（編），健康・体力づくり事業財団（発行），保健同人社，東京，5-19，206-222，267-293，1993。

（平成14年11月8日受理）



**The Consciousness of Parents toward the Smoking Status of their Elementary  
School Children and Junior High School Students  
Part 1 Present Conditions and Problems**

Noriaki TAKEDA, Kumi KAWADA, Keiko GODA, Jun MURAKAMI and Hidehiro SHIBAMOTO

(Accepted Nov. 8, 2002)

Key words : ELEMENTARY SCHOOL CHILDREN AND JUNIOR HIGH SCHOOL  
STUDENTS, SMOKING, PARENTS

Correspondence to : Noriaki TAKEDA      Department of Medical Social Work, Faculty of Medical Welfare  
Kawasaki University of Medical Welfare  
Kurashiki, 701-0193, Japan  
(Kawasaki Medical Welfare Journal Vol.12, No.2, 2002 421-429)